

SIX BOX EXHIBITION

- 6つの視点から読み解く伝統工芸 -

SIX BOX EXHIBITION は、伝統工芸の分野で活躍する方の作品などを6つの箱を用いて展示し、丹南地域の伝統工芸産業の魅力を紹介する取り組みです。モノだけではなく技術や環境・職人の想いなど、ひとつの面だけではなく多面的に伝統工芸を知ることによって、立体的にその魅力が浮かび上がってきます。6つのテーマをもった箱の中の展示を、さまざまな角度から、ぜひじっくりとご覧ください。

1. 「漆」と「柄」

漆のもたらす効果は見た目の華やかさだけではなくありません。漆には抗菌作用があり、衛生的な暮らしを守る働きがあります。

縄文時代から日本の生活様式にとりいれられてきた伝統的な素材です。

2. enie (エニエ)

行き場をなくした柄の端材から生まれたアクセサリ。

天然木ゆえに虫穴やクラックが入ってしまった製品は廃棄するしかありません。形になったものをどうにか活かさないものかと、断面をカットし漆の技術で加飾した柄と繪でしか表現できない作品です。

3. 工程紹介

和包丁の柄の製造工程。弊社製品の最大の特徴は「二重芯構造」。

紫檀・黒檀などの堅木は刃を挿(す)げるのに大変力が要り、また割れやすいです。その弱点を解消するためにクッション材となる柔らかい木を仕込むことで鍛冶屋・刃物屋の負担を軽減しています。

4. 越前打刃物

約800年の歴史を持つ越前打刃物。京都の刀匠・千代鶴国安が清らかな水を求め辿り着いたのが越前でした。国安が地元の農民に農具づくりを教えたところから現代にいたるまで越前打刃物は守り継がれてきました。現在では国内外から高い評価を受ける一大産地となっています。

刃	柄
1. 黒崎打刃物	紫檀八角緑口輪
2. 山本打刃物	紫檀しのぎ赤口輪
3. 安立打刃物	紫檀丸黒口輪

5. 山謙木工所の「柄」

「和包丁の柄(ハンドル)」を専門に製造する山謙木工所(柄と繪の運営会社)。

人々の暮らしに欠かせない包丁を支える大切な役目を担っています。変わらない使いやすいデザイン・持ち心地と新しい樹種との取り合わせで日本の包丁づくりを支えています。

6. 越前打刃物 × 河和田塗(越前漆器)

柄と繪には蒔絵師が在籍しております。漆器の技術を生かした新たな包丁の姿を創り上げのお手伝いをしています。伝統的な和のイメージから現代的なポップな柄まで、多様な塗りに対応しています。ギャラリーでは好みの刃と柄をオーダーすることも出来ます。

刃	柄
1. カトウ打刃物製作所	エンジュ八角に拭漆(黒)
2. 鍛冶工房いわい	漆錫和紙金彩(作・森田清照)
3. STYLE-K	漆絵「葉っぱ」(ウレタン塗装、漆)



山本 由麻

Yamamoto Yuma

高校生の頃、出身の静岡にある美術館で工芸の美しさに出会い、漆の色彩に魅せられ、東京芸術大学にて漆芸を専攻。在学中のインターンで訪れた鯖江市河和田地区で、初めて産地と職人に触れるなか、鑑賞用ではない実用のための「生活工芸」に共感を得る。大学卒業後は河和田を拠点に、加賀蒔絵師の田村一舟氏、辻漆器店店主の辻和氏に師事。結婚を機に山謙木工所に入社。蒔絵師の技術を活かし、「柄」の新しい側面を生み出していく。

山本 卓哉

Yamamoto Takuya

物心ついた時から、家業である山謙木工所を四代目として継ぐことを聞かされて育ち、東京農業大学では「林学」を専攻。就職活動を始めた折、山謙の商品開発の中心を担っていた叔父が急逝し、危機に陥った会社を助けるために帰郷。全くの素人で親方もいないなか、叔父の残したサンプルや資料だけを頼りに商品の製造に携わることに。パズルのピースをはめるように地道に試行錯誤しながら、今では20年のキャリアを持つ包丁の柄のスペシャリストとして、越前の地で打刃物業界を支えている。